秋田杉地域における林相の変貌

四 津 隆 一

わが国で古来3大美林の1つと称される米代川中・下流地域に分布するいわゆる秋田杉は、封建時代から高く評価されていた。元来秋田杉林は、伏条または立条によって増殖したものが多く天然林（天然生林）で構成されていた。林木の成長初期において、秋田杉は吉野杉などの人工杉にくらべて成長率が若干おとるが、樹令を経るにつれて次第に成長率は人工杉を凌駕し、大径木に育成する。材質は淡紅色で柃目が美しいのみならず、耐久力がつよいので、材質の良否によってかなりの値幅はあるが、大体造林杉の約5倍の値段で現在取引されている。

このような秋田杉は、伐期が長い関係もあって、里山の民有林地域よりも、従来の藩有林を踏襲する国有林において、分布が卓越する。一方ではまた従来資源保持の立場がつよく性格づけられていた国有林であったからこそ、このような高い令級の林木育成の施業が可能であったのだろう。従来秋田杉は、いわゆる銘木として、秋田杉本来の特色を十分に活かす方面に利用されてきた。しかし大径木の天然林を主体とした秋田杉は、近年減少著しく、林相は変貌し

つつある。

地元でもこの秋田天然杉の減少について憂慮し、あと何年で絶滅するなどと喧伝されているが、内容は総体的であって、林相の変貌に関する地域的分析があまりなされていない。秋田杉の主要分布地域である国有林を対象として、針葉樹の人工林率の変化によって林相の変貌を検討すると、針葉樹の蓄積の推移にはあまり顕著な変化がなく、ただ阿仁川上流の米内沢および阿仁地区では、16年間でかなり蓄積が増加している。また人工林率の変化では、秋田・米内沢および大館地区をのぞいて大部分の地区で人工林率の向上が目だつ。なお図の作製にあたり、営林署の所轄区域を基本区域としたが、1949年から1965年にいたる間でも名称の改変のみならず、米代川右岸の山瀬・早口の両区域が早口に統合されるなど区域設定に若干の齟齬があった。その場合1965年の所轄区域に1949年のものを合わせて作図した。

以上のような秋田杉分布地域の構造上の変化は、この地域の森林資源利用工業の性格変化とも密接な関係がある。（1968. 5. 14 受理）

四津隆一（1960）：東北地方の森林資源とその開発
東北地理 12 7～12

秋田杉地域における国有林の針葉樹蓄積とその天然林と人工林の比率

The Changes in the Cryptomeria Forests in Akita

Ryuichi YOTSU

So-called Akita-Sugi, the *Cryptomeria* of Akita district, has a high reputation all over the country with its lumber of high quality. Among the merits of the lumber, are counted particularly the huge size of the trees and the beauty of the grains. Excellent cryptomeria forests mostly belong to the national forests in northern Akita Prefecture. But recently natural Akita-Sugi forests are remarkably decreased and are replaced by other kinds of forests. Two figures show this change from natural forests to afforestation.